

1 PLAN(目的・概要)

その他経常業務

政策名	交流・環境		責任者	企画調整室 環境担当課長
施策名	良好な港湾環境の形成		連絡先	052-654-7819
事務事業名	港内環境の監視		連携課	
目的	対象(誰・何を)	港内環境	事業期間	～継続
	意図(どうい う状態にしたいか)	良好な港湾空間を維持することに貢献します。		
概要	水域の水質及び水底土砂の調査を実施します。 公害防止事業により敷設されたアスファルトマットの状態を目視等によって点検を行います。 名古屋港内において、空間放射線量及び海水中の放射性物質の測定を定期的に行い、測定結果を公表します。		根拠法令等	海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律、大江川河口域及び7・8号地間運河の底質監視計画ならびに対策指針
活動内容	底層溶存酸素調査を毎月、港内底質調査を浚渫工事前に実施を予定しています。 大江川等について、底質監視及び潜水土や音響測深器を使ったアスファルトの点検を実施します。 名古屋港内において、空間放射線量、海水中の放射性物質の測定を定期的に行います。		実施義務	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
			関連シート	

2 DO(実施)

コスト	単位	25年度	26年度	27年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	1,772	5,254	8,493	5,173	マルチ水質モニタリングシステムの消耗品購入量や底質調査箇所数が年度により変動するため
人件費	千円	6,475	8,218	14,496	9,730	
合計	千円	8,247	13,472	22,989	14,903	

3 CHECK(検証)

指標名	25年度	26年度	27年度	中間目標	30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
測定計画等に基づく水底質調査の履行率(%) (単年度管理型)	目標	-	-	100	100	港内の水質調査回数÷測定計画の回数 ・底層溶存酸素調査 ・底質調査 ・大江川、7・8号地間水質調査	
	実績	77.8	96.1	100			
アスファルトマット補修(箇所) (単年度管理型)	目標	-	-	-	-	予防保全のためのアスファルトマット補修箇所(箇所)	
	実績	32	-	46	-		
事業進捗状況(27年度)			目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る		
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	適切に港内環境の監視を実施しました。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性 本組が関与し、どうしてもやらなければならない事業か? 事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○	名古屋港内の水質の状況については、県民市民の関心が高くなっています。 名古屋市環境局と「大江川河口域及び7・8号地間運河の底質監視計画並びに対策指針」に基づき調査を実施しています。よって、本組が取り組む必要性はあります。					
	○						
有効性 事務事業は、施策達成に貢献するか? 期待どおりの成果が得られているか?	○	港内環境において、良好な港湾空間を維持することに貢献することは、港湾計画の方針である「良好な港湾環境の形成」に貢献すると考えております。 平成23年4月、国土交通省より「港湾における放射線対策について」が発表されたことに対応して、名古屋港内において、空間放射線量及び海水中の放射性物質の測定を定期的に行い、測定結果を公表しています。経過観察するために有効です。					
	○						
効率性 最小のコストとなっているか?	○	底層溶存酸素調査については、マルチ水質モニタリングシステムを使用し、直営で効率的に実施しています。 有害物質等の水質調査は、専門的機関に委託することによって業務の効率化が図られています。					

4 ACTION(取組)

課題	28年度以降の取組
港湾管理者として、港湾環境の現況を継続して把握していく必要があります。	引き続き、港湾環境の現況を把握します。また、必要に応じて、アスファルトマットの補修を実施します。